



認定NPO法人Kacotam

# 活動報告書

## 2025

### Vision

すべて子どもが学びの機会に出会い、  
自己実現にむけて挑戦できる社会

### Mission

環境に左右されない楽しい学びの場を  
すべての子ども・若者へ

# 目次

- 1. 2025年活動概要 ..... P3~6
- 2. 学習支援で関わる子どもたちの声 ..... P7~9
- 3. 学び支援事業 ..... P10~21
- 4. 支援の輪 ..... P22~28

# 2025年活動概要

# PICK UP 数字で見る2025年のKacotam

当年は、学習支援で関わる子どもは246名となりました。職員が一時的に減少したことに伴い、各活動において安定的に1対1の学びの機会を提供することを優先し、昨年よりも60名ほど減少しました。7市区町村において、継続して学びの機会を提供することができました。また、引き続き相談機関からの紹介によって子どもと関わる接点が生まれました。

## 子どもの人数

246名

小学1年生から高校3年生まで幅広く関わりました。約6割が拠点型学習支援で、約4割が個別訪問型学習支援(オンライン含む)で関わる子どもとなりました。

## 活動地域

7市区町村

北海道札幌市・北広島市・室蘭市・江別市・恵庭市・苫小牧市・東京都渋谷区に暮らす子どもと関わりました。オンラインでは、上記以外に小樽市、美唄市、興部町、宮城県に暮らす子どもに学びの機会を提供することができました。

## 協力団体・機関

81団体(機関)

児童相談所や家庭児童相談室などの公的相談機関、NPOや児童家庭支援センターなどの民間相談機関から紹介がありました。企業や町内会から会場提供を受けました。

## PICK UP 企業との連携による体験カコタムの提供

当年は、企業との連携により、普段学習支援で関わる子ども以外を含めた多くの子どもに体験活動を提供しました。

### 吉本興業株式会社との連携

延べ **70** 名

「こどもの虐待防止推進全国フォーラム with ほっかいどう」において、子ども向けのワークショップを実施しました。延べ70名の子どもがスノードームやスライムづくり、スーパーボールづくりに参加しました。

### アクセンチュア株式会社との連携

**25** 名

主にKacotamで関わる子どもや児童養護施設で暮らす小学校高学年以上の子どもを対象に、ロボットプログラミング教室を実施しました。25名の子どもが参加し、グループの仲間と一緒に話し合いながら、レゴブロックを組み立てたり、Scratchでプログラムをつくったりしました。

# 関係人口1,000人に向けた組織体制の強化1年目

当年より、300人の子どもの学びを継続的かつ安定的に支えるため、3年以内に「Kacotam関係人口 1,000人(メンバー 300名、サポーター 300名、協力団体・関係機関 100名)」の実現を目指し、組織体制を強化いたしました。

- 1 バックオフィスチームに非常勤職員の配置
- 2 常勤職員の1名を新規採用し、新たな4名体制の構築
- 3 新たなインターン制度を開始し、4名の大学生がインターンとして配置

私は活動を通して、学習支援はあくまでも子どもの自己実現に向けた手段の一つであることや、学習支援には、学習「を」支援するだけでなく、学習する準備を整えることも含まれることに気がつきました。

Kacotamがつくる学びの場は、子どもが安心してそこにいられる「安全基地」という場であり、挑戦への第一歩を踏み出すための自信を育む場でもあり、そしてメンバーとの交流から新たな興味が生まれる場でもあると思っています。



インターンメンバー

# 学習支援で関わる子どもたちの声

# 学ボラを利用する子どもの声

## 学ボラ(母子生活支援施設)「1から教えてくれる」



小6

施設の先生に、こういうのがあるよって教えてもらって始めました。学校の先生は忙しそうだから教えてくれても5分くらい。ここでは1時間かけて1からできるのがうれしいです。Kacotamまでにわかんないのや終わってないプリントをためておこうって、いつも用意しています。お母さんも喜んでくれていて、ゆっくり教えてくれていいねって言ってます。今度は前の学年の勉強を復習したいな。

## 学ボラ(児童養護施設)「いろんな角度から話してくれる」



高1

メンバーは優しくてふわっとしてて、高校受験のときは宿題出してくれたり、英語のカードを作ったりしてくれて、分からないことが分かるようになってテストの点数が伸びました。話をしても、友達は「そうだよね」しか言わないけど、メンバーはいろんな角度から話してくれる。施設の先生に話すこともあるけど、毎日会ってるから別にいいかってなりがちで、学ボラは1週間に一度だから、その週にあったことを全部話しちゃいます。

# スタサポを利用する子どもの声

## スタサポ「人生でできないと思ってた」



中1

毎回担当する人が変わる仕組みは、ゲームのデイリーガチャみたいで面白い。数学は過程がわからないことがあるから、教えてくれる人がいたら心が安心するのでめっちゃいいです。夏にカタチ化でビスマスの結晶を作りました。動画で見たけど高いし、人生でできないと思ってたからすごいいい経験で、心もピカピカになりました。Kacotamって自分の意見を言ったら叶うし、すごく自由度高いと思います。

## スタサポ「話を聞いて脱線するのが好き」



中3

みんなとても接しやすく、いろんな経験をしているメンバーがいるから、その人の話を聞いて、脱線するのが好きです。友達と話すときを遣うこともあるから、メンバーだから言えることもあります。1対1だから自分のペースで進められるし、自分のわからないところを適切に、確実に教えてくれるのがいいです。自分には、Kacotamで勉強するのがあってたと思います。

# 学び支援事業：学習支援

# 児童福祉施設への訪問型学習支援「学ボラ」

## 新しい施設からの依頼が増加

当年は、札幌市・北広島市・室蘭市内の児童福祉施設19施設で学習支援を実施しました。北広島市内の児童養護施設や札幌市内の自立援助ホームから初めて依頼がありました。また、児童相談所や現在利用している里親家庭から他の里親への紹介もあり、つながりを感じる1年となりました。

子どもの実人数

49名

訪問施設

19施設

里親家庭

6家庭

### 自立援助ホームの事例



専門学校への進学を目指して通信制高校のレポートや進路選択をサポートしました。お仕事カコタムとして、介護福祉士について話を聞きに行きました。

### 児童養護施設の事例



日々の学校の授業で気になる点の学習をしたり、中学校入学に向けた先取り学習をしたりしました。お仕事カコタムとして、救急救命士の方に施設まで来てもらい、話を聞きました。

# 地域拠点における学習支援「スタサポ」

## 安定した1対1の関わりの提供に取り組んだ一年

昨年9月以降の利用者急増を受け、安定した1対1の関わりを届けるためにメンバー確保を急ぐとともに、相互に連携しやすい組織体制の構築と拠点運営の効率化を進めました。

子どもの実人数

134名

活動拠点数

11拠点

1対1対応率※

1.15

年度初めは、ほとんどの拠点が1対1を完成させるために他拠点からの助っ人を必要とする状況でしたが、メンバー採用を進めていった結果、夏頃には各拠点で1対1の関わりを安定的に提供できるようになりました。また、拠点コーディネーターの複数体制やミーティング方式の改善を進め、メンバー同士でより協力・連携しながら活動できるような仕組みづくりに努めました。



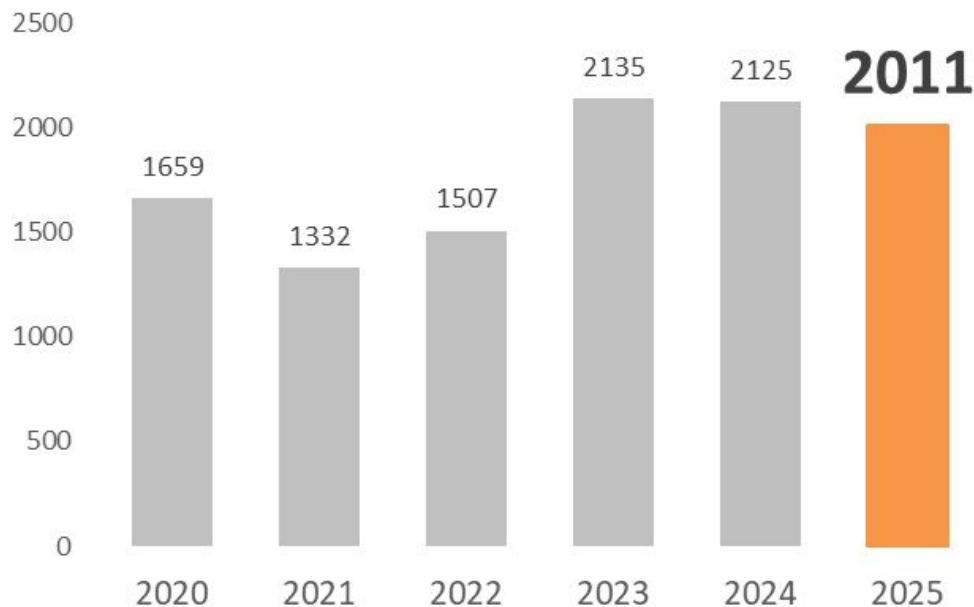
担当職員

※子ども一人当たりのメンバー人数

# 地域拠点における学習支援「スタサポ」

コロナ禍を経て、やや利用が減少していましたが、2023年以降から子どもの利用延べ人数が2,000人台に戻りつつあります。直近3年間は、安定的に1対1の関わりを維持することを優先し、ボランティアメンバーと子どもの利用人数の調整を図ったため、子どもの利用延べ人数は横ばいとなっています。

## 各年の子どもの利用延べ人数



# 一時保護施設における学習支援「ポル」

## 体験学習の定期的な実施を開始

当年は31名の子どもと関わりました。関わった期間は1週間～5ヶ月間で、平均して約2ヶ月間の関わりでした。一時保護される子どもは生活経験が限られていることが多い現状を踏まえ、当年12月から月1回程度、学習時間内に料理をする機会を設けました。「餃子づくり」「うどんづくり」等を実施し、子どもからは初めて包丁を使うなど積極的に挑戦する姿が見られました。

子どもの実人数

31名

平均関わり期間

約2ヶ月

これまでのプリント学習等を中心とした関わりを見直し、今まで以上に「子どもが実際にやってみる」ことを通じた学びの機会づくりに取り組みました。料理企画のほかにも、実験や具体物を使った説明、工作などに取り組んでいます。1年以上継続参加しているメンバーが多かったことで、アイデアを出し合いながら関わりをブラッシュアップすることができました。

一方で、子ども同士のトラブルや虐待経験が語られる場面などにどう対応していくかを試行錯誤する一年でもありました。子どもにとってもメンバーにとっても安心して活動できる場となるように改善に努めていきます。



担当職員

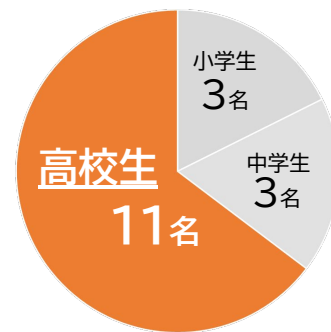
# 個別訪問型学習支援「テラス」

## 高校生割合の増加

当年は、前々年から継続した子どもが多く、高校生の依頼も重なり、高校生の割合が多くなりました。高校進学をきっかけに引きこもりから一歩踏み出し、高校生活を送っている子どもが多くなります。一方で、精神的負荷がかかり、登校頻度が低下する子どもがいることから、高校とのつながりが途切れることがないよう、関係機関と連携しながらサポートしています。

子どもの実人数

17名



## 訪問事例

相談室から紹介を受け、不登校で家族以外とのつながりが乏しい中学生の自宅へ訪問しています。精神的な不安定さもあり、訪問当初は自室から出てこれない、会話するのが難しいといった様子でした。きょうだいと一緒に集団で遊ぶことや本人の得意なイラストを関わりのきっかけに、徐々にイラストの描き方や好きなキャラクターを話題に会話ができるようになりました。最近ではイラストの道具を準備して待っていてくれるようになり、テラスが本人にとっての楽しみの一つになってきたようです。また、相談室と連携して取り組むことで、毎回より良い関わりを検討しながら進めることができています。

# 個別訪問型学習支援「テラス」

## 児童相談所との連携継続

当年は、前年に引き続き児童相談所との連携ケースが多くありましたが、テラスの活動開始当初に比べて、精神疾患やひきこもりで他機関のサポートが入っていないケースが多くなりました。

### 連携機関一覧

| 連携機関          | ケース数 |
|---------------|------|
| 児童相談所         | 8    |
| 児童家庭支援センター    | 2    |
| スクールソーシャルワーカー | 2    |
| 精神科病院         | 2    |
| 相談室           | 1    |
| 中学校           | 1    |
| NPO           | 1    |

### 依頼理由

| ケース背景      | ケース数 |
|------------|------|
| ひきこもり      | 9(5) |
| 虐待         | 6(4) |
| 精神疾患       | 6(2) |
| 他機関のサポート困難 | 4(2) |
| ヤングケアラー    | 2(1) |
| 地域の社会資源不足  | 1(1) |

※( )は、テラスを開始した2023年の数字

# オンラインの学習支援「あうるねっと」

## 新規申込にむけて動いた一年

当年は、北海道(札幌市、小樽市、美唄市、興部町)、東京都、宮城県に住む子ども15名とオンラインを通して学習を行いました。新規申込が増え、担当者の決定までに時間を要することが増えたため、その期間を確実に短縮できるようにするための取り組みを行いました。

子どもの実人数

15名

利用地域

6市区町村

オンラインを通じた関わりは、対面で学習するよりも、得られる情報が限られ、関係性構築も緩やかですが、回数を重ねることによって関係性が着実に構築されることは共通しています。一般的にネガティブととらえられる自身のことについて初めて話されることがあったり、ちょっとしたメッセージを継続することで、再び学習を頑張ってみようと思うようになったり、メンバーの関わりによる変化が見られています。また、オンラインだからこそ、札幌市以外の市区町村に住む子どもに対して学習支援を提供することができました。



担当職員

# 学び支援事業：体験活動

# 体験カコタム

当年は、毎年行っている自然体験学習や料理教室に加えて、メンバーが企画したもの、企業と連携したものの全6企画を実施しました。

## 自然体験学習

当年は、「森で非日常の世界にとびこもう！」というテーマで、恵庭市にあるキャンプ場にて、スタサポで関わる7名の子もとともに、森を探検したり、ピザ窯でピザを焼いたり、川で遊んだりしました。参加した子どもから「全部楽しかった！森の探検や川釣り、川での魚の捕まえ方が勉強にもなった」「森の中に入ってキノコや初めて見る植物を観察することが出来てとてもいい経験になりました！」という感想がありました。



## 当年実施した企画

| 実施月 | 企画名                         |
|-----|-----------------------------|
| 3月  | 原爆資料館<br>「ノーモア・ヒバクシャ会館」を訪れる |
| 8月  | 料理教室                        |
|     | 自然体験学習                      |
| 11月 | ロボットプログラミング                 |
|     | 工作ワークショップ                   |
|     | 牧場へ行こう                      |

# お仕事カコタム

当年は、学ボラで関わる子ども2名、スタサポで関わる子ども2名の計4名に対して、お仕事カコタムを実施しました。救急救命士、介護福祉士、起業家、マッサージ師の方にご協力いただき、インタビューをする機会を提供しました。

## 救急救命士編

児童養護施設で関わる小学生から「救急救命士になりたい」という声があり実施しました。

当日に向け、子どもは「救急救命士に必要な資質」や「今から努力すべきこと」「転勤の有無」など、16項目以上の質問を事前に用意していました。インタビュー後には救急車への乗車体験もさせていただきました。お仕事カコタムの後は、普段の訪問時に子ども自身が興味のあることについて、話すことが多くなりました。

協力:北海道ハイテクノロジー専門学校

## 介護福祉士編

自立援助ホームで関わる高校生が「介護福祉士」の仕事に関心を持ったことから実施しました。

当日は2名の介護福祉士の方々へのインタビューを行い、その後、施設内の見学や実際に使用されている福祉機器について解説をいただきました。現在は専門学校への進学を視野に入れて、学習を進めるようになりました。

協力:特別養護老人ホームあすかHOUSE中央

# 子どもの「やりたい」をカタチにするプロジェクト

当年は、主にスタサポで関わる子どもの「やりたい」を受けて、子どもの「やりたい」をカタチにするプロジェクト(カタチ化)として、9企画実施しました。

## 個展を開きたい第2弾

作品の制作にとどまらず、会場担当者との打ち合わせやレイアウトの考案、チラシ作成に至るまで、子どもが主体となって準備を進めました。第2回目の開催ということもあり、スムーズに準備が進行しました。当日は、来場者へ自ら作品の解説を丁寧に行う姿が印象的でした。個展終了後には、「次はパッと見ただけで、どのようなジャンルの作品かが伝わるようにしたい」と、次回に向けた具体的な抱負述べていました。



## 当年実施したカタチ化

卒業前ゆるきちお泊り会

英会話の勉強がしたい

チーズハッドグとドーナッツを作りたい

個展を開きたい 第2弾

センイルケーキを作りたい

ビスマス結晶をつくりたい

ゆるきちお泊り会

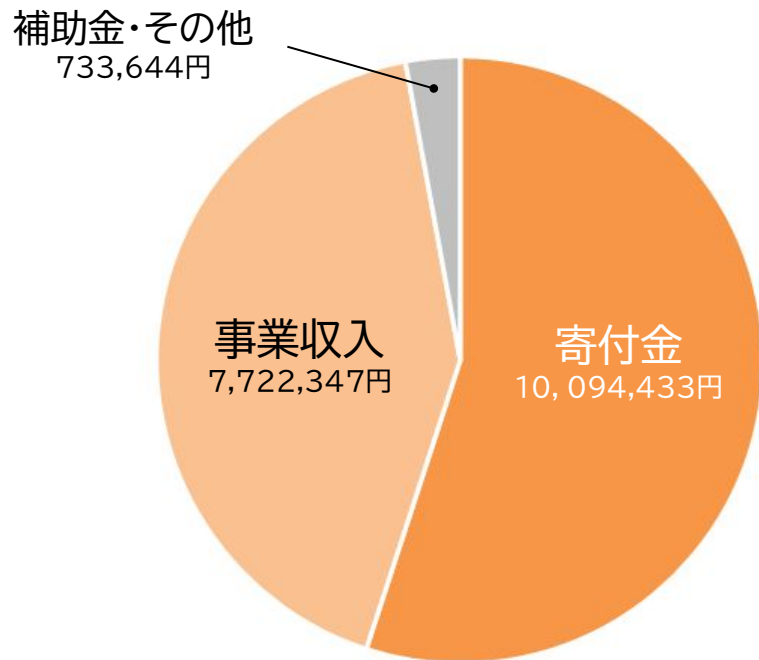
ゆるきちでお泊まりゲームパーティー

東京支部ボードゲーム大会

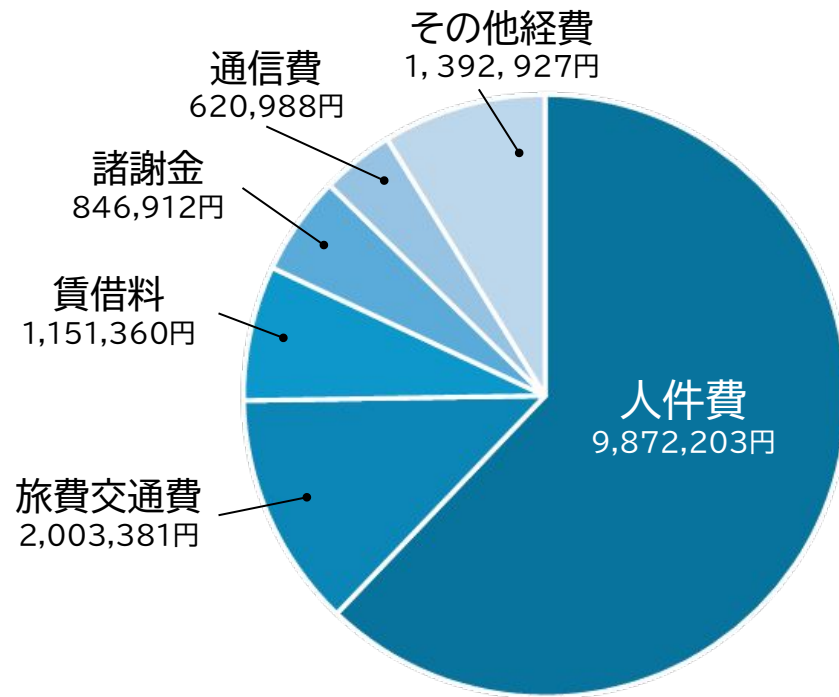
# 支援の輪

# 収支状況について

経常収益 18,550,424円

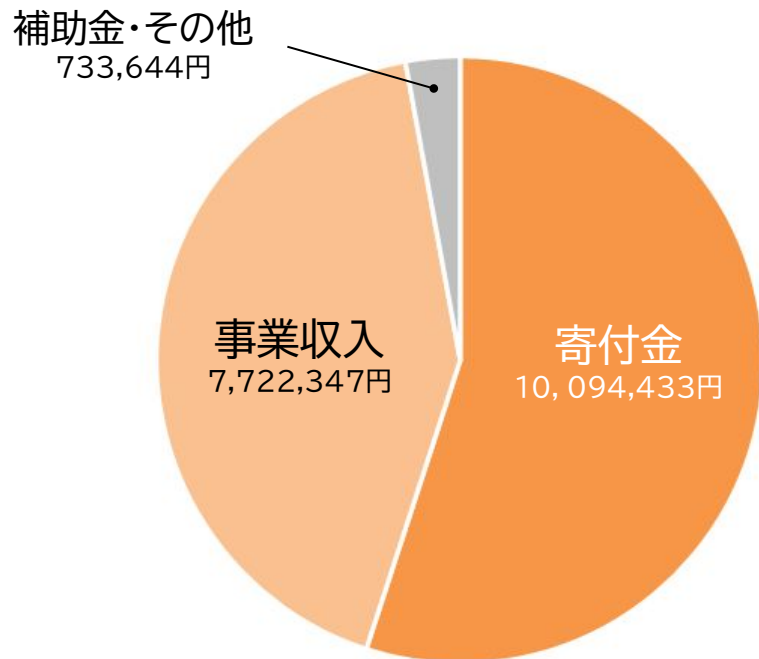


経常支出 15,887,771円



# 経常収入の状況

経常収益 18,550,424円



## 【受取寄付金】

|      |            |
|------|------------|
| 個人寄付 | 6,698,964円 |
| 法人寄付 | 3,400,469円 |

## 【事業収益】

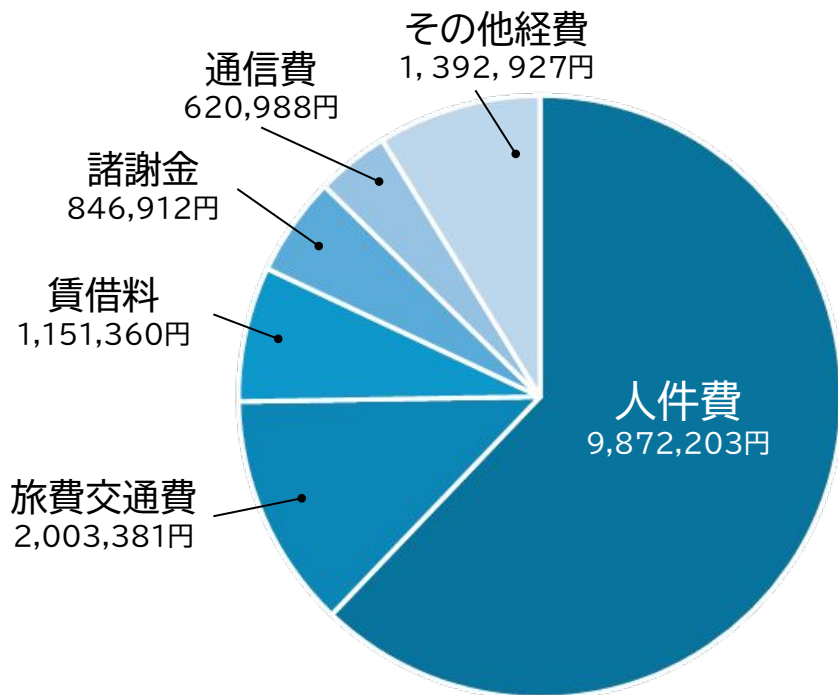
|            |            |
|------------|------------|
| 学び支援事業     | 6,443,013円 |
| コンサルティング事業 | 1,178,194円 |
| アドボカシー活動事業 | 101,140円   |

## 【補助金・その他】

|          |          |
|----------|----------|
| 受取助成金    | 132,000円 |
| 受取補助金    | 400,000円 |
| 受取利息・雑収益 | 201,644円 |

# 経常支出の状況

経常支出 15,887,771円



## 【人件費】

常勤職員4名・非常勤職員2名分の給与・法定福利費

## 【旅費交通費】

ボランティア・職員の交通費

## 【賃借料】

スタサポで使用する会場代・事務所家賃

## 【諸謝金】

高頻度での参加を担当したボランティアへの謝礼を支給

## 【通信費】

学び支援事業で使用するLINEや事務局で使用するシステム使用料・郵送料など

## 【その他経費】

30万円未満の教材費や消耗品費、保険料等

## 組織体制づくりに専念する3年の始まり

理事長 高橋 勇造

当年もKacotamにご協力いただき、ありがとうございました。子ども一人ひとりに継続して学びの場を提供することができました。

当年より、継続的かつ安定的に子ども300名の学びを支える体制づくりに力を入れています。活動を通して、これまで見えていなかった新たな社会課題を知り、それを一刻も早く解決するための新たな活動をつくりたい気持ちもありますが、まずは3年間で組織体制づくりに専念すると決めて取り組んでいます。

一時期、常勤職員が2名体制となり、厳しい決断をしなければならないこともありました。既存の職員をはじめ、多くのメンバーやサポーターの協力もあり、乗り切ることができました。最終的に常勤職員が1名増え、インターン4名が加わり、少し層を厚くすることもできました。

団体としてこれまでのあり方や課題に向き合う1年でもありました。メンバーの体制やこれから始めるメンバーの活動要件の設定、団体や事業の強み、支援の範囲…と時間をかけて検討しました。これから少しずつ検討した結果をあらゆる面に反映させていき、また一段組織として成長できればと考えています。

2026年も粘り強く体制づくりに専念し、すべての子どもが学びの機会に出会い、自己実現にむけて挑戦できる社会を目指して、活動に努めて参ります。

# SPECIAL THANKS

Kacotamの活動は多くの個人・企業・団体等からの寄付金および物品やサービスの寄贈、ボランティアなど様々な方々の支援により支えられています。一部とはなりますが、感謝の意を込めてご紹介いたします。

|                       |                   |                      |
|-----------------------|-------------------|----------------------|
| アクセンチュア株式会社           | 旭イノボックス株式会社       | 医療法人社団明日佳            |
| 一般社団法人MDRT日本会         | 株式会社APクリエイション     | 株式会社ア・ド建築工房          |
| 株式会社アミノアップ            | 株式会社トポフィリ         | 株式会社マサヤホールディングス      |
| 株式会社ラプト               | 国際ソロプチミスト札幌       | 札幌ユネスコ協会             |
| 札幌ライラック<br>ライオンズクラブ   | 札幌北の杜<br>ライオンズクラブ | 社会医療法人平成醫塾<br>苫小牧東病院 |
| 税理士法人すずらん<br>総合マネジメント | 中原圭祐公認会計士事務所      | 日本技研北海道有限会社          |
| 北海道生活協同組合連合会          | 公益財団法人日本ライオンズ     | 社会福祉法人扶桑苑            |



カコタム

# Kacotam

環境に左右されない楽しい学びの場を  
すべての子ども・若者へ

発行：認定NPO法人Kacotam  
発行日：2026年5月15日